

2025年12月14日

『みんなのスポーツ』12月号(№519)から学ぶ

林 但



平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、**公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の12月号は「震災復興を支援する総合型クラブ」の特集号です。**

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を2点記載します。

(1) **わが町の健康・体力づくり 北海道旭川市** 市人口の規模は横須賀市に近く中核都市も同じ。会社勤務時代グループの会社もあり、何度か訪問した都市、また、全国リーダー養成講習会の時にやはり旭川の方と一緒に受講しました。今回一番目を奪われたのが、65名で運営された組織です。内訳は、スポーツ競技団体、小・中学校の校長会・教頭会、福祉団体、大学生に一般公募。男女比は 6:4、平均年齢 55.5歳(最高齢 75歳、最年少 18歳)

研修部会・広報部会・地域振興部会・Zoo 体操推進部会の4つに委員は所属して活動されている。
市民の方が主体的にスポーツに取り組めるように出前講座、はじめはサポートしつつ以降は自主的に取り組めるように工夫されているところは見習っていきたい。

(2) **課題別研修会「正しく知ろう、聞こえない世界」 東京都スポーツ推進委員協議会による研修会**です。私も企業の研修センター勤務時代に短い期間でしたが、カルチャースクールで手話の講座の事務局も担当したことがあります。今回、“目で聞く”文化を理解するという中見出し以降の文面です。聴者文化と聾者文化の違いをテーマに、具体的な事例を交えながらの解説。①呼びかけ方の違い、聾者には肩や腕を軽くたたくこと。②聾者への会話の始まりは「目を合わせること」であり、聾者は目から情報を得ている。

研修会後半は、デフリンピックや地域での普及活動の紹介があったようですが、共に学び、共に生きる社会にするために違いを理解しあい、心をつないでいくことが大切だと感じました。先月末聾者の水泳記録会のお手伝いをさせていただきましたが、何回か参加しているといろいろな気づきが増えまた学ぶ機会もありました。

今月号で2つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれません、気づいたことでできることから始めて(行動)みませんか？

* 本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがあるように私は思います。年間購読されなかつた方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合と横須賀ではこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど思います。特にここ1、2年で冊子内容が読者参加型の編集になりました。

活動はみんなでは是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上